

## 第1回 地域コミュニティのあり方検討委員会 議事録（要約版）

日時：令和4年5月23日（月）18：30～20：30

会場：出羽公民館ホール

出席者：委員16名（作野広和氏、日高輝和氏、井上英司氏、古田五二嗣氏、小田博之氏、品川隆博氏、橋本茂氏、森脇和代氏、和田康司氏、日高弘之氏、藤本順子氏、小笠原文夫氏、有井貞之氏、甲村正樹氏、瀧田均氏、皆田潔氏）※2名欠席  
事務局7名（田村哲（地域みらい課長）、松本義文（総務課）、小笠原誠治（福祉課長）、三上徹（生涯学習課長）、湯浅孝史、上田直明、秋本啓太（地域みらい課））

### 1. 開会あいさつ

田村地域みらい課長：今年度は今日を含めて6回の開催を予定している。地域コミュニティをどうしていくかを議論する場だと思っているので、皆さんからの意見をいただきたい。

日高副町長：第1回ということで公募の方も含め、委員の方にお集まりいただいた。邑南町のような地域では活力ある地域活動が重要な役割を果たしているが、地域によっては活動が困難になっているところも出てきているように思う。厳しい状況だが、地域で活躍されている皆様にお集まりいただき、知恵を出し合いながら、将来も安心して暮らせるよう考えていきたい。

### 2. 趣旨説明

田村地域みらい課長：コミュニティの枠組みとして、集落、自治会、公民館の単位がある。自治会については、合併前の石見町で50年、その他で17年くらい経とうとしている。今後も長年にわたって同じ体制でいくのは困難になってくると思う。まだ自治会が機能しているうちに、議論をしていきたい。

これまでは準備会という形で役場内で議論してきたが、今後は住民の方も入れて議論していきたい。委員には、多様な地域の方に就任いただいている。委員会で今後の方針の案を作成し、町長に提案する予定。

### 3. 自己紹介

### 4. 委員長、副委員長選任

田村地域みらい課長：委員長は作野先生にお願いしたいがよいか。

一同：拍手

作野委員長：1997年に島根大学に着任し、その後中山間地域研究センターが開設され、二人三脚で中山間地域の研究に取り組んできた。布施地区で合宿を始めて10年目で、邑南町には大変お世話になっている。

地域がおかれている状況は厳しい。地域コミュニティがどうあるべきか考えていくうえで重要な観点は2つあり、1つ目は縮小、ダウンサイジング、減築。これまでは人の減りを防ごうということだったが、これからはそもそも役を減らすなど、将来も持続可能にしていく。2つ目は、多様性を享受できるようにすること。お互いの違いを認め合えるような社会づくりを目指していくべき。啓発等では限界があり、多様な人々が参画できるような地域の仕組みづくりも考えられる。地域の方の知恵をいただき、いい結論を導き出していきたい。

田村地域みらい課長：副委員長は作野委員長から指名いただきたい。

作野委員長：副委員長は日高副町長でいかがか。

一同：拍手

田村地域みらい課長：副委員長は日高副町長とする。

## 5. 邑南町における地域コミュニティの現状と課題の説明

事務局：(資料5の内容に沿って説明)

## 6. 意見交換(委員の発言を事務局で集約)

### ○組織の多様性について

・合併時には集落単位の常会で十分機能を果たしていたが、多様性を考えず、統一的に自治会を作った。統一的なほうがやりやすいかもしれないが、自治会があるところとないところがあってもよい。

- ・地域の実情に応じた対応が必要。
- ・多様性があれば地域は生き残れる。

### ○人の多様性について

#### (1) 女性参加について

- ・地域活動に女性が入ると細かいところに手が届くようになる。
- ・役員をやっていないと住んでいるところのを感じることができない。会合に世帯主が出て、帰ってから話をするわけでもない。
- ・集落レベルであれば世帯主だけでなく全員集まって話ができそう。

## (2) 若者参加について

- ・若い人にも出てほしいが、上から押し付けられるのは嫌という思い。
- ・次の世代が役をやりたがらない。
- ・役職が何をしているのかわからない。
- ・人口が多だけで役員任せな地区もある。同じ人ばかりが役員をやっている。
- ・次の世代がこの委員会に入ってもよい。
- ・参加してくれる若い人がいないのは負担があるから。

## (3) 移住者の参加について

- ・旧町村意識が強く残っているのを、移住者として強く感じる。打開も必要。
- ・Iターン者は受け入れられているように感じるが、Uターン者の配偶者などは意見を言いづらい雰囲気を感じる。

## (4) 関係人口について

- ・地域行事は地元だけでは動けなくなってきているので、外の力を借りる。

## (5) その他

- ・自治会はローテーションでやらされ感がある。任期も2年で課題解決の取組はできない。
- ・組織の話に重心がおかれているが、個人に目を向けるべき。
- ・一人一人が意見を言える環境づくりが必要。

## ○組織構造について

- ・3階層は難しいのではないか
- ・持続可能な地域づくりに向けて3層構造を2層構造にしたい。
- ・自治会内の整理は行ってきたが、地域全体で考える必要が出てきた。
- ・集落再編（2つが1つになど）も考えていかないといけない。
- ・地域行事は、集落単位で動けるものを続けていくことが集落維持に必要。
- ・1地区に複数自治会があるところは時代に合わせて見直していくべき。ある程度専門家の方にこういう風という線を示してもらいやり方もある。

## ○行政に求めるもの

- ・官民協働はいいが、役場が住民側の仕事を増やしていないか。行政のやるべきことと住民がやることの整理をきちんとしたほうがいい。
- ・行政が1集落から1人役を出せというのをやめてもらいたい。20世帯くらいに1人くらいがちょうどいいのではないか。
- ・役は行政側が考えるべき。増やすなら他を減らす。役の大変さを軽くすることで若い人を取り込むことにもつながる。
- ・人口を増やすために、どのような支援が受けられるかがわかる仕組みづくりが大事。

## ○人材不足について

- ・複数の役員をやっているが、後任が誰もいない状況。
- ・人が少ない集落が役員のなり手で苦しまなくて済むようにしたい。
- ・集落には集金など様々なことをお願いしているが、それが難しい状況になってきている。
- ・孫ターンなどで、邑南町に来て間もない人が自治会長になるような危機的状況になっている。

日高副委員長：多方面からご意見いただいた。地域コミュニティはずっとテーマとしてやってきていることではあり、地域レベルでも、国の施策に合わせてもやってきた。どうしても、行政は同じように対応する、まとめようとするところがあると思った。地区別戦略を始めるときに、国を挙げてまち・ひと・しごと創生に取り組まれたが、皆さん本気になって考えてくださった。そのような中で、コミュニティに課題が出てきており、普段は気づかないが、じわりじわりと進んできている。こういう機会なので、いろいろな視点から議論を深めていって、行政としてマンパワーをどうしていくのかを考えていく。地域でできなくなったことを行政がやる、まだ動いていない人を引っ張り出す、関係人口を活用するなどが考えられる。地域の困っているところに対応できる行政組織でないといけないと思うが、財政が厳しい状態が続いている。最低限の予算で最大限の効果を出すという観点でもご意見をいただき、考えていきたい。

作野委員長：皆さんの意見は必ず今後の議論に反映させてほしい。行政からの依頼事項について、すべての依頼事項、配布物などもすべて整理し、それをどうするか検討すべき。行政としては自治会にお願いしていても実際には集落に依頼されている場合もあるので、それについても検討する。

若い人を増やす点について、委員をこれ以上増やすわけにもいかないと思うので、これ以外の場で若い人に参加してもらう場をつくる。

## 7. 閉会あいさつ

田村地域みらい課長：委員の方から一言ずつ意見をいただいた。今後も意見をいただきたい。

事務局：7月17日にキックオフイベントを実施予定。次回委員会の日程は7月11日の予定。会議時間について、今日は18時半からだったが、変更の希望があるか。

一同：希望なし

事務局：地域での公聴会を12月に考えている。若い人の意見も必要だというご意見もあったので、やり方は検討していきたい。